

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属 英語観光学科 (英語キャリア学科)	職名 教授	氏名 箕野 聡子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1) 視聴覚教材の活用	2003(平成15)年4月 ～現在	一方的な講義形式になりがちな文学の授業において、資料DVD, パワーポイントを活用することによって、作品への理解や関心を深めるようにしている。	
2) 授業確認の作業	2003(平成15)年4月 ～現在	授業の理解度をはかるために、毎時授業終了に小レポートを提出させるか、ノート提出させる。小レポートの課題については、授業開始時に知らせることで、授業への集中力をうながしている。また、ノート提出させる時には、あらかじめ講義に沿った書き込み式の用紙を配る。小レポートもノートも、教員がチェックし次週に返却し、フィードバックを行う。	
3) ゼミにおけるメーリングリストの利用	2006(平成18)年4月 ～現在	ゼミ生全員が電子メールの利用が可能であることを踏まえ、メーリングリストを利用し、各種連絡、質問・回答、などに利用している。これにより、講義時間外のゼミ準備作業や論文作成時などでも、学生とのコミュニケーションがとれ、円滑に学習を進めることが可能となっている。近年はグループLINEも利用している。	
4) 授業の組み立ての工夫 (時間の分割)	2003(平成15)年4月 ～現在	長時間同じ話題に集中することができない近年の学生の傾向にあわせ、授業では15分以上同じ話題が続かないように工夫している。学生間の討議や視聴覚教材を挟むなどし、常に顔が上がるように刺激を与えるように、授業プログラムを組んでいる。	
5) 新聞への投稿による文書力の育成	2009(平成21)年4月 ～現在	「日本語文書表現講座」においては、読書を意識した文章を書く練習を行う。学生同士の添削作業に始まり、図書館蔵書の小説書評作成と常時展示により、学内の読者を意識した文章作成を研究する。その後、社会問題を取り扱った内容で「朝日新聞」への投稿原稿作成を行う。一般読者を意識した文章作成の訓練は、学生の学習意欲を高めている。8年間で25名の原稿が掲載された。	

6) 企業公募への応募による社会調査力の育成	2010(平成22)年10月～現在	「ネーミングコピー論」・「日本語文章構成法」では、コピー作成技術の習得とともに、時代や企業からのニーズを正確にくみ取る訓練として、学生が自主的に、公募されているネーミングコピーに応募する方法を導入した。実際に入選するには、企業や時代のニーズを正確に読み取る必要がある。結果として、「まちづくり標語懸賞」の特選をはじめとし、高等学校のマスコットや新設設備のネーミングなどで、入賞を果たしている。
7) 「日本文化論」における文楽技芸員特別講座	2012(平成24)年7月～現在	「日本文化論」では、落語・歌舞伎・文楽・能楽などの日本の古典芸能を扱っている。このうち、文楽に関しては、鑑賞教室に毎年参加し実際の舞台を観劇している。2012年度からは、授業に特別講師として若手技芸員豊竹咲寿太夫を招き特別講座をおこなった。同世代の技芸員の講座は、古典芸能を身近に感じるとともに、仕事を選ぶという問題とともに考える機会ともなっている。取り組みは「神戸新聞」(2012年7月14日朝刊34面)、「読売新聞」(2013年4月14日朝刊24面)にも掲載された。
8) クラブ活動の指導	2001(平成13)年～現在	2000年より料理部・2007年よりアナウンス研究会・2009年より文化研究会・2012年度より新聞部・大学祭運営委員会の顧問をし、学生の個別指導にあたった。特にアナウンス研究会はNHK全国放送コンテストで第24回の朗読・アナウンス二部門で優勝し、第27回のDJ部門で本選出場を果たした。文化研究会では、韓国からの留学生を部員に迎え、異文化校流を行った。2016年には文化研究会の主催公演を企画し、六甲アイランドオルビスホールで「K O B E 発信!! スタイリッシュな伝統芸能」と題した英語寄席を催し、神戸からの文化発信を行った。2012年度からは学生部長として、全クラブの指導にあたり、常に5割以上の学生がクラブ活動を行える環境作りに務めている。
9) 委員会活動	2001(平成13)年～現在	2014年度は、学生委員会(委員長)・キャリア委員会(委員長)・学報編集委員会(委員長)・大学改革運會・協議委員会・人事委員会・予算委員会・自己点検評価委員会・保険委員会・入試委員会・入試広報委員会の委員を務めた。
10) 「キャリアデザイン入門」アクティブラーニング	2014(平成25)年～現在	1年次生の「キャリアデザイン入門」英語観光学科では、大学のある青谷町の観光企画を行っている。2014年度の「都賀川」の研究は、灘区安全安心まちづくり研究助成金を受けるまでに発展した。2015年度は、大学周辺のカフェの取材を行い「歩いて行こうよ! 神戸海星から カフェ本」として発行し、オープンキャンパスや大学祭で配布した。社会に出る準備として、身近な地域とつながる試みは、大学広報の役割も兼ねた。
2 作成した教科書、教材、参考書		

1) 『新版・日本語表現法～「書く」「話す」「伝える」ための文法～』（樹村房）	2013（平成25）年1月	共著（西尾宣明・水原道子・平田祐子・奈良崎英穂・宮田篤・箕野聡子・苅野正美・福井愛美）各章ごとに問題を設け、解答用紙が提出できるようになっている。一方的な講義ではなく、学生の習熟度をはかりながら、授業をすすめるために作成した教科書である。担当部分：3文章の構成、4 間違いやすい文と見直しの方法、5 レトリックと慣用句とことわざ
2) 『高等学校国語総合（合冊）TM 教授資料』	2013（平成25）年3月	小川洋子「人と人が出会う手順」の項目を担当した。
3) 『京都近代文学事典』	2013（平成25）年5月	共著 和泉書店 地元の文学を調べるにあたり、有用な辞典である。担当部分：井島勉P36・大橋健三郎P76～77・森浩一P345・山元護久P367の項目を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1) 生涯学習 神戸文学館 土曜サロン 「宝塚文化 ～小林一三の戦略」	2012（平成24）年2月	『兵庫近代文学事典』刊行の記念行事として、コラム内容による講演を、神戸文学館が企画したもののひとつである。宝塚文化といえば、宝塚歌劇が代表されるが、この歌劇の歩みを阪急電鉄の沿線開発事業の発展とともに捉え、現在の学園都市文化が育まれた事情を考察する。
2) 生涯学習 神戸市立六甲道勤労センター 特別講座 「灘とその周辺地域を舞台とする文学作品を読む」（全3回）	2012（平成24）年9～10	地元灘を舞台とする文学作品を読む3回連続の講座である。第1回（9月29日）「～モダンな文化地域「灘」～谷崎潤一郎の「細雪」（小説）」・第2回（10月6日）「～懐かしい町「灘」～小川洋子の「ミーナの行進」（小説）」・第3回（10月13日）「～モダンとレトロの狭間で～岡部伊都子「ザークの孤独」（随筆）、横光利一「灘にいたころ」（随筆）」
3) 生涯学習 神戸海星女子学院大学 第24回公開講座 「宝塚文化 ～小林一三の戦略～」	2012（平成24）年10月	観光ホスピタリティ学科の「関西文化論」では、地元の文化がどのように観光産業と結びついているかを考察している。この講座では、宝塚歌劇がどのように関西文化に根付き、その土地の代名詞にまでなっていたのかを鉄道の歴史とともに考察した。宝塚が、その本拠地を決して動かさなかった理由を考える事で、文化を観光資源にすることの意義を考察した。

<p>4) 生涯学習 神戸文学館 土曜サロン 「青谷文学散歩」</p>	<p>2013 (平成25) 年4月～現在</p>	<p>2013年より、毎年4月に定期的に行っている講座である。神戸文学館を発着地とし、大学のある青谷を含めた地域を散策する講座である。谷崎潤一郎、田辺聖子、横光利一、岡部伊都子、村上春樹、小川洋子らゆかりの作家についての解説を加えながら、灘区の文化的な歴史を見直す講座とした。</p>
<p>5) 生涯学習 宝塚公民館 「阪神間モダニズム文化が育んだ文学」 (全8回)</p>	<p>2013 (平成25) 年6月～ 2014 (平成26) 年1月</p>	<p>阪神という地域性は大商業都市・大阪と大港湾都市・神戸との間に生まれ、独自の文化を形成してきた。この地域に花開いた阪神間モダニズム文化が、作家たちの創作活動にどう影響していったのかを探究した。</p> <p>① 6月13日 (木) 谷崎潤一郎「細雪」 ② 7月11日 (木) 田辺聖子「愛してよろしいですか?」、「私的生活」 ③ 8月8日 (木) 小川洋子「ミーナの行進」 ④ 9月12日 (木) 横光利一「灘にいたころ」、「街の底」 ⑤ 10月10日 (木) 有川浩「阪急電車」 ⑥ 11月14日 (木) 手塚治虫「リボンの騎士」 ⑦ 12月12日 (木) 岡田淳「竜退治の騎士になる方法」 ⑧ 1月9日 (木) 玉岡かおる「お家さん」</p>
<p>6) 生涯学習 神戸市立六甲道勤労センター 特別講座 「灘・神戸文学散歩」 (全3回)</p>	<p>2013 (平成25) 年9月</p>	<p>地元神戸を舞台とする文学作品を読む3回連続の講座である。9月7日(土)映画「阪急電車～片道15分の奇跡～」に描かれた神戸(原作 有川浩『阪急電車』) 9月14日(土)田辺聖子の愛した神戸(田辺聖子「愛してよろしいですか?」、「私的生活」) 9月21日(土)明治・大正の神戸の商い(玉岡かおる「お家さん」)</p>
<p>7) 生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」 (全8回)</p>	<p>2014 (平成25) 年6月～</p>	<p>関西文化の影響を受けた作家の作品を読み解いた。テーマは「そこに、女神がいた」八人の作家の、作品世界を動かした女性に注目した。</p> <p>① 6月 織田作之助「夫婦善哉」 ② 7月 小泉八雲「耳なし芳一」 ③ 8月 遠藤周作「叛逆」 ④ 9月 万城目学「プリンセス・トヨトミ」 ⑤ 10月 泉鏡花「龍潭譚」 ⑥ 11月 宮本輝「錦繡」 ⑦ 12月 村上春樹「ノルウェイの森」 ⑧ 1月 久坂葉子「ドミノのお告げ」</p>

8) 生涯学習 神戸海星女子学院大学 ミニ公開講座 「『文楽』の国際化」	2014（平成26）年7月	文楽太夫豊竹咲寿大夫氏を招き、「『文楽』の国際化」といタイトルで講座を開講した。神戸は、古くは新開地や湊川神社に古典芸能をかける芝居小屋を多く持ち、それを観光にもつなげていた。今神戸では、これら古典芸能への関心が浅いが、「国際化」というキーワードで、神戸と古典芸能とを繋いだ。
9) 生涯学習 神戸新聞文化センター 午後のカルチャータイム 「女流作家が描いた阪神間モダニズム」	2014（平成26）年7月	小川洋子「ミーナの行進」を取り上げ、そこに描かれた阪神間モダニズムを検証し、故郷喪失者達の作り上げた文化の崩壊を考察した。
10) 生涯学習 神戸市立六甲道勤労センター 特別講座 「灘・神戸文学散歩」（全3回）	2014（平成26）年9月	地元神戸を舞台とする文学作品を読む3回連続の講座である。宮本輝「錦繡」・泉鏡花「龍潭譚」・久坂葉子「ドミノのお告げ」
11) 生涯学習 神戸海星女子学院大学「モダニズムが育んだ阪神間文学」（全8回）	2014（平成26）年11月～2014（平成26）年1月	阪神間モダニズム文化の影響を受けた作家の作品を読み解いた。
12) 生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」（全8回）	2014（平成25）年6月～ 2014（平成26）年1月	1923（大正12）年に起きた関東大震災は、当時の関西文壇に大きな影響を与えた。被災という形で関東の文化が関西に流入し、震災復興とともに関西の文化が関東に流出したからです。今に続き東西の文学の融合について検証した。 ① 6月 芥川龍之介「藪の中」 ② 7月 谷崎潤一郎「蓼食う虫」 ③ 8月 山本周五郎「須磨寺附近」 ④ 9月 林芙美子「放浪記」 ⑤ 10月 稲垣足穂「星を造る人」 ⑥ 11月 横溝正史「虹のある風景」 ⑦ 12月 梶井基次郎「Kの昇天」 ⑧ 1月 竹中郁「黄蜂と花粉」
13) 生涯学習 神戸海星女子学院大学「関西文化が育んだ文学 春・秋コース（各8回）」	2015（平成27）年5月～ 2015（平成27）年7月・ 2015（平成27）年10月～ 2015（平成27）年12月	関西文化の影響を受けた作家の作品を読み解いた。
14) コープカルチャー 生活文化センター 「青谷文学散歩」	2015（平成27）年11月～ 2016（平成28）年2月	神戸市灘区青谷町にかかわりの深い文学に触れる。 村上春樹・宮本輝・稲垣足穂・泉鏡花

<p>12) 生涯学習 宝塚公民館 「関西文化に育まれた文学」(全8回)</p>	<p>2014(平成25)年6月～ 2014(平成26)年1月</p>	<p>1923(大正12)に起きた関東大震災は、当時の関西文壇に大きな影響を与えた。被災という形で関東の文化が関西に流入し、震災復興とともに関西の文化が関東に流出したからです。今に続き東西の文学の融合について検証した。</p> <p>① 6月 宮本輝「流転の海」 ② 7月 堀辰雄「旅の絵」 ③ 8月 宇野千代「色ざんげ」 ④ 9月 菊田一夫「がしんたれ」 ⑤ 10月 菊池寛「忠直卿行状記」 ⑥ 11月 森鷗外「生田川」 ⑦ 12月 有吉佐和子「一の糸」 ⑧ 1月 山崎豊子「花のれん」</p>
<p>13) 生涯学習 神戸海星女子学院大学「関西文化が育んだ文学 春コース(全8回)」</p>	<p>2015(平成27)年5月～ 2015(平成27)年7月</p>	<p>関西文化の影響を受けた作家の作品を読み解いた。</p>
<p>13) 生涯学習 神戸海星女子学院大学「大人が楽しむ児童文学 秋コース(全8回)」</p>	<p>2015(平成27)年10月～ 2015(平成27)年12月</p>	<p>近代の文豪たちの児童文学作品を読み解いた。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p>		
<p>1) 社団法人 ひょうごツーリズム協会主催「ひょうごのまち歩き」参加</p>	<p>2010(平成22)年11月～ 現在</p>	<p>2010年から、毎年11月に実施している。大学のある青谷の観光コースを設定し、学生ガイドに参加者の案内をさせるための指導を行った。ツアーコンダクターの希望者の実施訓練ともなるこの企画は、同時に地域貢献の役割も果たしている。</p>
<p>2) 夢ナビライブ「講義ライブ」</p>	<p>2011(平成23)年7月 2012(平成24)年6月</p>	<p>インデックス大阪で開かれた国公立大学・私立大学合同新学ガイダンスにおいて、「絵本の見せ方・選び方」と題して、講義ライブを行った。高校生に大学での学問のありかたについて紹介する講義である。</p>

3) 灘区安全安心まちづくり研究指導		2014(平成26)年8月 ～2015(平成27)年11 月		灘区安全安心まちづくり研究助成金を受けて、英語観光学科1年次生の有志学生が行った研究を継続指導した。研究テーマは「都賀川～観光資源と安全の両立に関する研究～」である。韓国ソウルのチョンゲチョン川との比較研究を行ったため、現地視察の引率も行った。研究は、「神戸新聞」に（「神戸海星女子学院大の4人 観光と安全 両立研究」2015年4月9日朝刊24面・「海星女子学院大生 都賀川研究を発表 観光、景観、安全面を考え」5月29日朝刊23面）紹介され、灘消防署での成果発表（5月28日）の様子は、テレビ大阪（「ニュースリアル」（6月1日）でも紹介された。ラジオでは「ラジネットひょうご」（兵庫県内のコミュニティFM10局とラジオ関西で放送）で、この研究内容を発信し、またこの研究成果を広く伝えるために行ったボランティアガイドによる「まち歩き」は好評を得たため、4月と11月のと2度行い、さらには企業からの依頼を受けて2016年度にも11月に実施した。神戸消防局監修の生活あんぜん・あんしん情報誌「雪」（2015年8月）に概要が紹介され、この内容は都賀川を守る会の記念誌にも転載された。		
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号 数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	
著書						
論文等						
論文「『パウロの混乱考』太宰治と今官一」	単著	2012(平成24)年5月	「太宰治研究」20 和泉書院	山内祥史 編	129～139頁	
論文「小川洋子『ミーナの行進』考——死と孤独と安住できる場所——」	単著	2012(平成24)年9月	「阪神近代文学研究」（第13号）阪神近代文学会		120～132頁	
論文「【作品とその生成要素】『水仙』と菊池寛『忠直卿行状記』」	単著	2013(平成25)年6月	「太宰治研究」21 和泉書院	山内祥史 編	32～41頁	
「〔調査報告〕1923年の『大阪朝日新聞 神戸附録』 その2」	共著	2014(平成26)年3月	「研究紀要」（第52号）神戸海星女子学院大学研究委員会		65頁～74頁	

コラム「虹が繋ぐ物語の世界 作家が愛した神戸・青谷」	単著	2015（平成27）年2月2	「産経新聞」夕刊 文化		9面
論文「神戸の香り～宮本輝と阪神間モダニズム」	単著	2016（平成28）年3月	「研究紀要」（第54号）神戸海星女子学院大学研究委員会		51頁～60頁
論文「青谷が語る～神戸海星女子学院周辺の文学」	単著	2016（平成28）年3月	神戸海星女子学院大学 言語文化研究所「言語文化研究」第2号		27頁～39頁
論文「スタジオジブリと近代文学——『もののけ姫』と永井荷風『狐』」	単著	2017（平成29）年3月	「研究紀要」（第55号）神戸海星女子学院大学研究委員会		93頁～102頁
発表・依頼講演					
公開講演 「菊池寛の初期戯曲文藝について——菊池寛の中の高松——」		2014（平成26年）6月	日本文藝学会 第51回大会		
発表 「英語で書かれた日本文化——ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の怪談」		2014（平成26年）11月	神戸海星女子学院大学 言語文化研究所 第6回 研究発表		
記念講演 「神戸の香り～宮本輝と阪神間モダニズム」		2015（平成27）年10月	企画展「宮本輝 記憶の神戸へ」神戸文学館		

記念講演 「坂の途中——神戸の風景と文学——」		2017（平成29）年2月	企画展「坂道の情景 神戸を描いた文学」神戸文学館		
その他					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
日本文藝学会	常任理事（2013（平成25）年12月～現在）・会計監査（2009（平成21）年6月～2013（平成25）年11月）				
神戸近代文化研究会	代表者（2015（平成25）年4月～現在）				
阪神近代文学会	運営委員（2009（平成21）年7月～2012（平成24）年7月）				